

JA 全厚連情報

～ 安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献する ～



2023

6

No. 1 | 28



©よい食プロジェクト

JA ZENKOUREN INFORMATION

目 次

- 本会・中村理事長のインタビュー記事が掲載
日本農業新聞（5/3 付）・日本農民新聞（4/15 付） 1
- 令和5年度事業企画委員会の運営等について協議
事業企画委員会を開催 2

・通信員だより

- 院内保育所最後の卒園式（由利組合総合病院） 3
- 看護部役職研修の開催「心理的安全性を学ぼう」（湖東厚生病院） 4
- 地元フットサルチームのメディカルチェック（水戸協同病院） 5
- Bリーグ会場でJAグループ茨城のPR活動（JA茨城県厚生連） 6
- マスク 33 万枚の寄付（JA茨城県厚生連） 7
- 看護学生対象のインターンシップを行いました（相模原協同病院） 8
- 新採用職員研修会を行いました（相模原協同病院） 9
- ニューボーンフォト撮影サービスを開始しました（稲沢厚生病院） 10
- ホームページをリニューアルしました（海南病院） 11
- 新型コロナワクチン大規模集団接種関係者として愛知県知事より感謝状を贈呈いただきました（JA愛知厚生連） 12
- 技能実習生交流会を開催（JA三重厚生連） 13



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp
(事業運営支援グループ)
<http://www.ja-zenkouren.or.jp>
編集責任者 中村 純誠



本会・中村理事長のインタビュー記事が掲載

日本農業新聞（5/3付）・日本農民新聞（4/15付）

本会の中村純誠代表理事理事長が、日本農業新聞並びに日本農民新聞よりインタビューを受けました。

インタビューでは、「コロナ禍における厚生連病院の対応」や「病院経営に対する物価高騰の影響」、「JAグループにおける健康増進活動」について、厚生連を取り巻く現状を説明しました。

特に、日本農業新聞からのインタビューでは、令和2年1月にコロナ患者を初めてJA神奈川県厚生連相模原協同病院で受入れたことも踏まえて、令和5年5月8日に、政府が新型コロナウイルス感染症の位置付けを「5類」とすることとしていることについて、その影響についても含まれている。

それぞれの記事は以下のリンクからご覧ください。

【2023年4月15日 日本農民新聞】

日本農民新聞 2023年4月15日号 | 日本農民新聞社(agripres.co.jp)

<https://agripres.co.jp/archives/16449>

健康増進活動は所得向上の“一丁目一番地” JA総合事業の中で価値の再認識を

【2023年5月3日 日本農業新聞】

コロナ5類移行、病院への影響は？ 全厚連・中村純誠理事長インタビュー / 日本農業新聞 (agrinews.co.jp)

<https://www.agrinews.co.jp/news/index/153562>

コロナ5類移行、病院への影響は？ 全厚連・中村純誠理事長インタビュー



インタビューの様子(日本農業新聞)

令和5年度事業企画委員会の運営等について協議

事業企画委員会を開催

本会は令和5年5月19日に、東京・大手町のJAビルにおいて、事業企画委員会（医療事業部門・保健事業部門合同）を開催した。

事業企画委員会は、理事会の補完機関として、JA厚生事業の現状や行政の動向等を踏まえ、厚生事業の課題解決策等について検討することを目的に設置している。

協議事項では、（1）令和4年度経営収支状況による健全性指標とその対応、（2）令和5年度事業企画委員会の運営および委員の選出、（3）令和5年度厚生連病院財政調整事業の実施、（4）個人情報に係る監督指針の改正、（5）兼職・兼業規制に係る対応—等について協議した。

（2）について、令和5年度は医療事業部門に「実務者PT」及び「医師PT」の2つの専門部会を設けることとし、「実務者PT」は、厚生連の常勤役員により、厚生事業の課題解決策や事業の方向性等について検討いただき、「医師PT」は、病院長経験者により、臨床の現場で培ったスキルや知識を用いて課題解決等の検討をいただくことで承認が得られた。

報告事項では（1）厚生事業に係る要請等の取組み、（2）厚生連の令和4年度経営収支状況、（3）地方創生臨時交付金における電気・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金の活用、（4）令和4年度特別交付税措置の活用状況—等について報告を行った。

（1）～（3）に関して、円安・原油価格の高騰等により物価高騰が厚生連の経営を圧迫していることを報告し、今後の取組みとして、JA愛知厚生連にご協力いただき、自民党議員連盟「農民の健康を創る会」の現地視察を江南厚生病院で実施予定であることを報告した。

現地視察では、国に対し、円安・原油価格の高騰等による物価高騰への対応について、必要な財政措置をお願いするほか、「コロナ過での病院の患者対応」、「医師の偏在是正及び医師の働き方改革への対応」、「サイバーセキュリティ対策への支援」について要請することとしている。



院内保育所最後の卒園式

(JA秋田厚生連・由利組合総合病院)

由利組合総合病院（軽部彰宏病院長）では、3月18日、院内保育所の卒園式が行われ、1名が卒園を迎えました。何日も前から保育所スタッフ一同が心をこめて卒園証書等を手作りし、式本番に向け入念に準備をしていました。

当日は卒園児のご両親のほか、院長、副院長看護部長、事務長、総務管理課職員、保育所スタッフ、年中児3名が出席しました。卒園児が涙を見せながらも立派に挨拶する姿、そして軽部彰宏院長の温かいお言葉を真剣な眼差しで聞く子どもたちの様子はとても印象的でした。保育所スタッフも卒園児の成長に涙々で、入園してからの出来事を思い出しながら送り出すことができました。一つひとつがとてもアットホームで、笑顔と涙、そして沢山の感動に溢れた素晴らしい卒園式となりました。卒園児が院内保育所での思い出を忘れず、小学校でも健やかで元気に過ごせるよう心から願っております。また、素晴らしい卒園式を作り上げてくれた保育所スタッフに、心より感謝を申し上げます。

平成22年に開設した院内保育所は園児2名からスタートし、たくさんの子供たちの笑顔と共にこれまで運営してきました。今回最後の卒園児を送り出し、惜しまれながらも令和4年度をもって閉園となりました。これまで温かいご支援をいただき、ありがとうございました。



卒園式の様子

(斎藤美翔通信員)

看護部役職研修の開催「心理的安全性を学ぼう」

(JA秋田厚生連・湖東厚生病院)

湖東厚生病院（波多野善明病院長）の看護部では、安心して働き続けられる職場環境を作るため、看護部の役職員を対象として「心理的安全性のある職場環境にするためには」をテーマに研修会を開催しました。

心理的安全性とは、気兼ねなく安心して自分の意見や考えを言える状態を個々にではなくチーム全体が共有していることをいい、心理的安全性が高いチームは離職率が低く、多様なアイデアをうまく利用することが出来、収益性も高くなると言われています。

研修会は4～5人ずつのテーブルに分かれメンバーを入れ替えながら話し合うワールドカフェ形式で、心理的安全性のある職場環境にするために役職員として自身ができることを話し合いました。

コロナ禍もあり久しぶりのワールドカフェでしたが、各テーブルでは活発に意見交換が行われました。笑顔で明るい声であいさつをするといった基本的なことから、話しやすい態度で相手の話を傾聴し意見を否定しない、協調性をもち協力し合う、同じ目標を持ち目的に向かって話し合うなどの意見が出され、自発的な行動や目標達成に向けた姿勢について共有しました。

心理的安全性が高い時は、①ポジティブな発言が多い、②失敗や問題についても話す機会が多い、③職場に笑いとユーモアがあるという3つのサインが見られるとされています。

職員が安心して働けることが、患者さんへ安全で良質な医療を提供することへも繋がると思いますので、3つのサインが見られるような職場環境作りに努めてまいります。



研修会の様子

(斎藤美翔通信員)

地元フットサルチームのメディカルチェック

(JA茨城県厚生連・水戸協同病院)

JA茨城県厚生連（酒井義法・代表理事理事長）が運営する総合病院水戸協同病院（渡辺重行病院長）で、4月20日、『malva（マルバ）mito FC』の選手がメディカルチェックを受けました。

『malva mito FC』は水戸市を拠点とするフットサルチームであり、選手は自身の試合だけでなく、子供たちへの指導なども行い、水戸市を中心に地域活性化に貢献している組織の一つです。

2022年から水戸協同病院もスポンサーとなって応援しており、今回は一部の選手がメディカルチェックを本院で受けることになりました。

今後も体調を万全に、フットサルを通じて地域に貢献してほしいと思います。



メディカルチェックを受ける『malva_mito FC』の選手

(酒井一彦通信員)

Bリーグ会場でJAグループ茨城のPR活動

(JA茨城県厚生連)

プロバスケットボール男子1部リーグ(Bリーグ)「茨城ロボッツ vs 秋田ノーザンハピネッツ」戦が、4月29日、30日、アダストリアみとアリーナで行われました。

今回は、茨城ロボッツのスポンサーであるJAグループ茨城の主催試合ということで、JA茨城県厚生連(酒井義法・代表理事理事長)も一緒になり、訪れた方に様々なPR活動を行いました。

来場者全員にJA水郷つくばの蓮根せんべいを、先着順の数量限定で「ふくまる」300g(茨城県産米)や、本会提供の絆創膏セットをはじめとしたグッズを配布しました。更に、ハーフタイムショーで行われた抽選会では、茨城県が誇る銘柄牛「常陸牛」、同じく、茨城県を代表するブランド豚肉「ローズポーク」、また、対戦相手が秋田県のチームということもあり、「さきほこれ」(秋田県産米)と「ふくまる」2kgずつのセットなど、豪華な賞品がプレゼントされました。

試合は、初日が91-82、2日目は89-75で、茨城ロボッツが見事2連勝を果たしましたが、リーグ終盤の大事な試合は互いに素晴らしいプレーの応酬となり、非常に白熱した戦いとなりました。

今回のJAグループ茨城のPR活動については、茨城ロボッツのブースター(サポーター)はもちろん、秋田ノーザンハピネッツのブースターからも関心が寄せられ、予想以上の成果を感じ取ることができました。

JA茨城県厚生連は、今後もJAグループ茨城の一員としてこのような活動に参画し、地域づくりに貢献していきたいと思います。



JA茨城県厚生連で用意した絆創膏セット



来場者にプレゼントを配布する本会のスタッフ

(酒井一彦通信員)

マスク 33 万枚の寄付

(JA茨城県厚生連)

JA茨城県厚生連（酒井義法・代表理事理事長）では、5月15日、ユニ・ケアー株式会社（ユニ・チャームグループ）から「プレミアム ナーシングマスク」33万枚が寄付され、JAとりで総合医療センター（富満弘之病院長）にて贈呈セレモニーが行われました。

今回は、小川一成茨城県議会議員を通じての寄付であり、これまでの新型コロナウイルスに対するJA茨城県厚生連の受け入れなどの対応を踏まえ、5類移行後も「第9波」や強い毒性及び感染力を持った変異株が発生した際に、以前のように態勢を維持してほしいという思いから、本会の各病院への寄付となりました。

ユニ・ケアー株式会社の大和幸夫法人営業部長からは「マスクを利用し、スタッフご自身の身を守って、患者さん等へ安全・安心な医療を提供していただきたい」、また、小川一成茨城県議会議員からは「新型コロナウイルスに限らず、マスクを活用して医療現場を安全な環境に保ち、業務にあたっていただきたい」とお話しをいただきました。

これに対し、本会を代表して齊藤繁副会長は「自身の感染対策及び健康管理においてマスクの着用は重要であり、今回の寄付は非常にありがたい」と感謝の気持ちを述べました。

こうした期待に応えるためにも、JA茨城県厚生連はこれからも新型コロナウイルスへの対応には万全な態勢を維持し、地域医療への貢献に努めてまいります。



マスクの寄付の様子

(酒井一彦通信員)

看護学生対象のインターンシップを行いました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

3月28日、29日に相模原協同病院（井關治和病院長）は、看護学生対象のインターンシップを行いました。阿部看護部長の挨拶から始まり、救急外来の看護師によるBLSの講義では、心肺蘇生やAEDを用いた実技を行いました。その後、各グループに分かれて病院内の見学が行われ、様々な場所で実際に働いている看護師から話を聞きました。病院見学の後は、入職2～3年目の先輩看護師がグループに加わり座談会を行い、どのグループも時間ギリギリまで会話が飛び交っていました。年齢が近い先輩看護師に実際に働いてみた感想など、参考になる意見がたくさん聞いたのではないのでしょうか。



BLS実習



ドクターカー見学

(生沼貴彦通信員)

新採用職員研修会を行いました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

4月5日に相模原協同病院(井關治和病院長)は、多目的ホールにて令和5年度入職者向けの研修会を行いました。研修会では、当院の基本理念や各部門の役割、感染対策室による感染対策の講義等を行い、当院の一員として必要な知識を習得しました。新しい一歩を踏み出した新入職者のみなさん、これから一緒に頑張っていきましょう。



手洗い実習



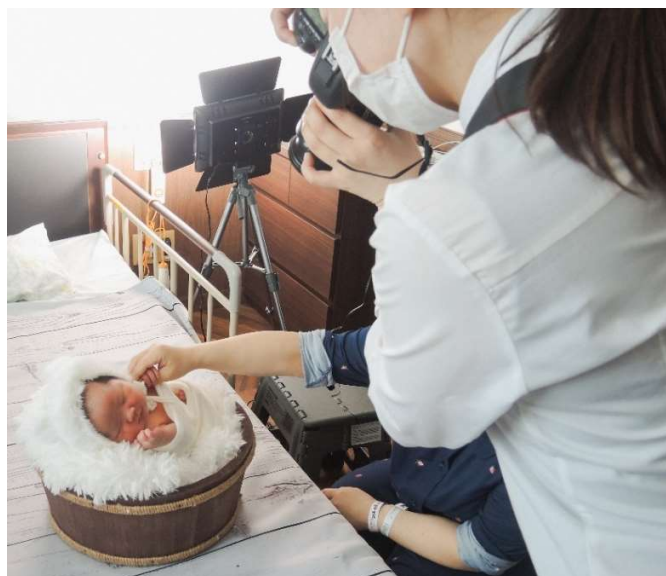
プラスチックエプロン着脱実習

(生沼貴彦通信員)

ニューボーンフォト撮影サービスを開始しました

(JA愛知厚生連・稲沢厚生病院)

稲沢厚生病院（伊藤浩一病院長）は、今年度よりアイキッズ株式会社と提携して新生児撮影サービスの提供を開始しました。対象は、同院で出産したすべての妊産婦・新生児です。簡単な登録だけで女性フォトグラファーが病室まで出張して、人気の「ニューボーンフォト」を撮影することができます。撮影は、母子の負担なく安全に配慮して実施しており、サービスを開始した4月は出産された方の約半数から申し込みをいただいています。



病室で行われた撮影の様子



出産記念フォトコース(無料)写真



オプションコース(有料)写真

出産は多くのご家族にとって一生に一度の特別な瞬間です。この特別な瞬間を祝福することができるよう、医療スタッフ一同、サポートします。

(井桁千聡通信員)

ホームページをリニューアルしました

(JA愛知厚生連・海南病院)

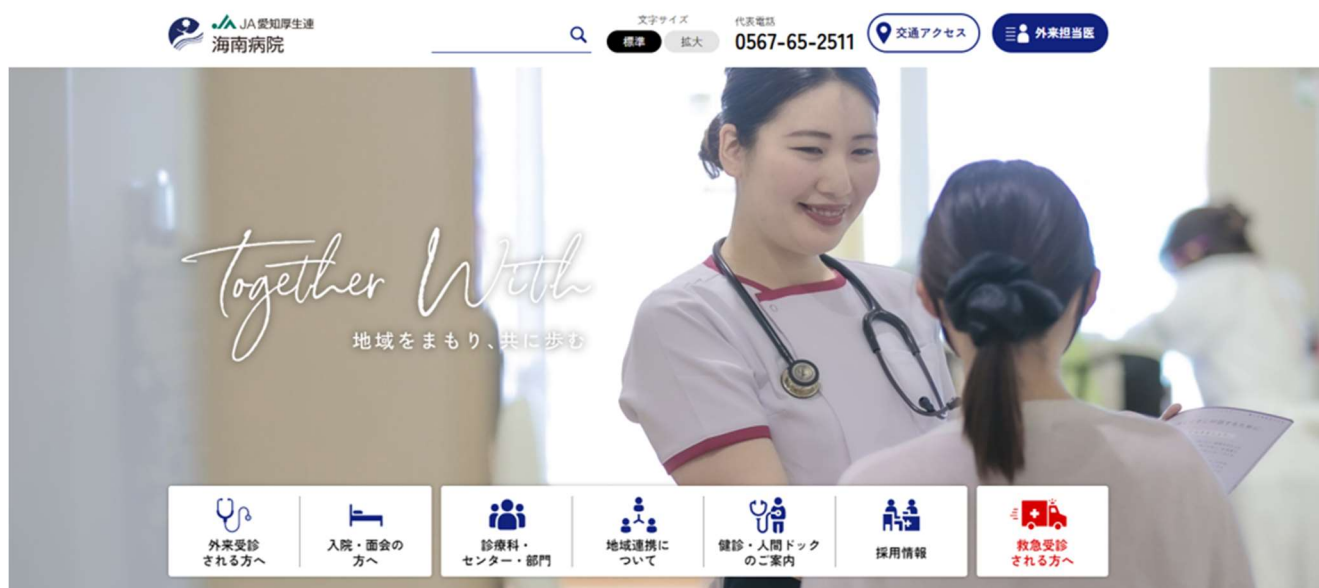
海南病院（奥村明彦病院長）のホームページを全面的にリニューアルしました。デザインや機能を一新し、より分かりやすく、快適にご利用いただけるようになりました。是非、ご覧ください。

ホームページはこちらからご覧ください。

<https://kainan.jaaikosei.or.jp/>



海南病院 Web サイト(With5月号掲載)



海南病院ホームページ

(井桁千聡通信員)

新型コロナワクチン大規模集団接種関係者として 愛知県知事より感謝状を贈呈いただきました

(JA愛知厚生連)

4月25日、愛知県庁にて新型コロナワクチン大規模集団接種関係者への感謝状贈呈式が行われ、JA愛知厚生連(宇野修二・代表理事理事長)より長谷川会長と秀野企画課長が出席いたしました。本会は、安城更生病院(度会正人病院長)に設置した大規模集団接種会場にて2021年7月3日~2023年3月25日までの期間のうち135回会場運営にあたり、延べ2,362名の職員で5万9,183回の接種を行いました。運営にご尽力いただいた全ての関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。



愛知県庁で行われた贈呈式の様子 左)長谷川会長 右)大村知事

(井桁千聡通信員)

技能実習生交流会を開催

(JA三重厚生連)

JA三重厚生連（庄山隆裕・代表理事理事長）では、5月22日、技能実習生と指導員の交流会をJA三重ビルで開催し、4事業所から技能実習生14名、指導者6名が参加しました。

監理団体の担当者も同席し、庄山理事長からの歓迎メッセージにつづき、技能実習生から日本での生活や仕事上で苦労していることなどについて発表を行いました。

その後、参加者全員でJAビルから徒歩5分ほどにある津偕楽公園へ移動し、昼食としました。好天に恵まれ汗ばむほどの気温でしたが、日陰では心地よい風が吹き、すがすがしい新緑のなか、お弁当を楽しみました。

午後は技能実習生と指導員に分かれて懇談会を開催し、指導員は他病院との交流によって、課題の解決策を見出すとともに、技能実習生は実習の継続に向け監理団体との懇談を行いました。

参加した指導員からは、特に方言の理解が大変そうだが、まじめに業務に取り組み、技術の習得は確実に進んでいると語っていました。これからの活躍を期待します。



(教来石信彦通信員)